

本島コミュニティセンター 市長と語る会

日 時：令和 6 年 8 月 6 日（火） 午後 0 時 45 分～2 時 00 分

場 所：本島コミュニティセンター

参加者：13 名

担当者：市長、地域担当職員 十河（本島市民センター）、秋山（本島市民センター）、森本（秘書課）

1. あいさつ

（会長）

お忙しい中お集まりいただき、お礼申し上げます。ただいまから、みんなでまちづくり市長と語る会を開催する。

私、本島地区の地域づくり推進協議会会長の富木田が、お手元の次第に沿って進めるのでよろしく願います。また、市長はこの後 2 時 15 分の船で帰られるので、2 時を目途に終了したいと考えている。ご協力のほどよろしく願います。

本日は暑い中、皆さんご協力いただき感謝申し上げます。市長、また、本島地区の地域づくりの顧問である岡田議員にもお越しいいただき、「市長と語る会」を開催できることを本当にうれしく思っている。時間等の制限があるが、皆さんの忌憚のない意見で進めていきたいと思うので、ご協力をお願いします。

（市長）

こんにちは。本島コミュニティの皆様方におかれては、丸亀市政運営に対し日頃からご支援、ご理解、ご協力を多大にいただいていることをこの場をお借りしてまず御礼を申し上げます。

私は 7 月に 11 日間、東京で国土交通省と財務省を中心に、陳情活動をしてきた。地元選出の国会議員にも前もってお願いをし、国の役人のところへ要望に行き、丸亀では国からこういう予算をいただきたいという内容を細かく説明してきた。国では 8 月の後半に各省庁から財務省に大まかな予算の概算要求をするようなので、その中に入れてもらうのが一番の目的である。これをまた細かく予算編成するにあたっての最終段階の要望に、10 月、11 月にも行く予定である。

今日はどうぞ忌憚のないご意見を言っていただければと思う。

2. 意見交換

（会長）

それでは、次第に沿って、最初にテーマ「まちづくりはひとづくり」について、市長から説明をいただきたい。

(市長)

私は市長になって4年目で、元気なまちづくりを作ろうと頑張っているところである。

皆さんご存じのとおり、日本全体が人口減少に突入している。四国はその中でも地方ということで、人口減少はかなり早いスピードで進んでいるが、丸亀市は香川県の中でも減少の度合いが比率的には少ない。少子高齢化とよく言われるが、年をとっても、人が元気でまちづくりに取り組むことで、元気なまちづくりはずっと維持できると考えている。私としては、まちを元気にするには、やはり人、人づくりというのは大切にしなければいけないと常々思っており、今年の4月に組織を変更し協働推進部を創設した。

この協働推進部は、力3つの協と働く。一緒に何かを取り組む、何か仕事をする、その協働推進部というのを作った。これは、市民の皆さんと行政が一緒になって取り組んでいこうということである。担い手不足がよく言われている。例えばコミュニティ会長、役員も次になってくれる人がいない。

今までは、自治会に加入している1軒あたり300円の補助金を各自治会に出していた。100軒あれば3万円。これを少しでも自治会、地域づくりの活動に寄与できればと、今年4月から倍の600円にした。それと自治会長の手当も変えた。どうしても実費というものが出ると思うので、本当に少しであるが、自治会長手当を増やし、そういったことも1つの人づくりだと思っている。

能登半島で1月1日に大地震があったが、七尾市は締結をしてから50年経つ本市の親善都市である。私は1月2日に七尾市の市長と話をし、物資が来てもそれを受けて捌く人がいないので、人を送ってほしいということになり、七尾市へ1月5日から7月1日まで3人ずつ職員を派遣し、延べ200人を超えた。物資よりも、実際に動く人が非常に役に立ったと大変感謝された。現在は、土木技師を1人、4月1日からまずは1年間派遣し七尾市で仕事をしている。

元気なまちづくというのはやはり人だと思っている。大災害が起こっても、結局は身近なそこに住んでいる地域の人たちの助け合いが、一番共同生活の中では大事だということをつくづく感じているところである。

それともう1つ、小中学校で今年の4月から「人づくり石垣プロジェクト」というものを教育委員会の方で取り組んでいる。コロナ禍の時期に学校はかなり臨時休校になり、休みが多くなり、日本全体で不登校の子供が増加していると聞いているが、丸亀も同じで、不登校の子供たちが増えている。そして授業日数が少なくなったことで、学力への影響も懸念される。

市では、小中学校の講師の先生方、支援員と補助員、スクールソーシャルワーカーなどの相談業務をする専門の方々を全部で51名雇い、これを5年間やっていく予定である。これは予算が1億2000万から3000万ぐらい主には人件費でかかる。

それを「人づくり石垣プロジェクト」という名前で、ちょうどこの夏、6年前に崩れた石垣を一つずつ丁寧に積み重ねる、それになぞらえて一人ずつ丁寧に先生方が接する時間を

とれるように、この 51 名を雇う予定である。今の段階では 47、8 名の雇用であるが、できれば 9 月までには 51 名を雇えるように考えている。

私としては「まちづくりは人づくり」という、やはり人を大事にしながら元気なまちづくりに取り組んでいきたい。そしてまた、職員、教育委員会の中でも言っているが、子供たちの人づくりにはお金を惜しまず、遠慮なく予算要求するように言っている。

以上が、私が言うところの「まちづくりは人づくり」の説明である。

(会長)

ただいま市長からテーマである「まちづくりは人づくり」の説明をしていただいた。ご質問、ご意見があれば挙手のうえ、名前を述べをお願いします。

(岡田議員)

「人づくり石垣プロジェクト」は 5 つの柱があるが、その一つの人材育成で文化知識を持とうということで市内の小学校 6 年の対象者 920～930 名が本島へ来ている。

それと今年から学生の運賃を無料化にさせていただいた。これは本当に助かっている。それと一昨年は、トリドールの丸亀製麺からのふるさと納税で 1 月、2 月を運賃無料にして、今年はその延長として毎月 20 日に運賃無料をやってくれている。

ここは押さえておいてほしいが、小豆島や直島の運賃は上がっている。燃料費、人件費の高騰で上がっている。JR の運賃も上がっている。丸亀市内の運賃は下げているから、これは現実的な話として押さえていただきたい。

今年度は強い要望があった栈橋も出来るようになる。そして泊の公衆トイレがきれいになる。一生懸命やってくれている。

3. 質問

(会長)

それでは、質問をしていきたいと思う。その質問に対してまた市長からご意見をいただきたいと思うので、よろしくお願いします。

質問票の 1 番について、本島地区地域づくり推進協議会、福祉部会 副会長の芦内さんから願する。

(コミュニティ 1)

フェリー代について今年度から毎月 20 日運賃を無料にさせていただいたのは大変うれしいことではあるが、島外の方への来島支援としては有効であるかもしれないが、島民への支援策としてはまだまだ十分ではないと思っている。毎月 20 日を無料にする予算があるのなら、フェリー代を今よりもっと安くして欲しいというのが島民の願いである。来る人はお金を払ってでも来るので、島民の運賃を安くしてくれる方が願いだと思う。島外からの誘致も重要ではあると思うが、まずは島民の定住があつての誘致であると思うので、将来的な移住の促進の観点からも島民への運賃の補助を拡充していただけないかと思っている。

島民はフェリーに乗るだけで 1000 円弱、1 日往復するだけでかなりの金額がかかる。車

の運賃もそうであるが、往復 7000 円弱かかる。そんなにお金がかかる島に移住を勧められるか。家族で 1 回買い物に出ても運賃だけで何千円とかかる。車を乗せていくともっとかかる。それで陸地部の人は食費をまかなえるくらいになる。

車のフェリー代が高いので、みんな丸亀の方に車を 1 台もしくは 2 台置いているが、自分で駐車場を借り、それも余分なお金である。フェリー代、車の運賃が安くなれば丸亀に車を置いておかなくていいようになる。

そして、小学生以上を無料にしてきていただいたのは大変ありがたいことであるが、75 歳以上の高齢者の方もぜひ無料にしていただきたい。陸地部のコミュニティバスも 75 歳以上の高齢者は無料になっている。

島から高齢者の方が病院に行くだけで、フェリー代、タクシー代、診察代がかかる。年金だけで生活している人には大変な支出だと思うので、もう少しどうにかして欲しい。

私たち島民にとってはフェリーがなければどこにも行けない。フェリーに乗ることが必須なので、島民の状況を見て、島民が住みやすい本島になることを検討していただきたい。

(市長)

今は年 2 回の車両航送料補助、中学生以下、小学生以上の運賃は 4 月から無料にした。それと毎月 20 日の航路運賃無料デーを創設した。

フェリー代の金額は、どうしても生活にとっても必要なことであるが、様々な状況を随時検討させていただく。来年からすぐにみたいなことははっきりまだ言えないが、今、瀬戸内の島々はいろんな面で注目もされており、丸亀市の宝はやはり瀬戸内の島々であると、私も市長になってからずっと言っている。いろんな面で岡田議員のアドバイスと指導も受けながら、少しずつではあるが島に予算を割いていっているという状況であるので、今日言われたこともしっかりと私も職員も聞いておく。

しかし、今すぐ運賃を全部無料にしますとかは正直言ってすぐにはできない。

(コミュニティ 1)

無料とは言っていない。観音寺市の伊吹島もそうであるが、島民は半額である。顔写真入りの島民カードがあり、船員がフェリーの中で島民カードと切符を引き換えにし、島民は半額。

(市長)

いい事例を紹介していただいた。

(コミュニティ 1)

フェリー代にどれだけお金がかかるのか、ここで生活をしている人でないと分からない。せめて半額くらいにさせていただけたら、みんな生活しやすい。

(市長)

その要望はしっかりと受け止めた。2 割引というのは前から行っていたか。

(岡田議員)

昔は有限であったが、今は無限。

(市長)

2割引は今実行している。

(コミュニティ 1)

もう一声。

(岡田議員)

航路運賃の話は、航路というのは国の道路とみなした場合、道路は高速道路以外運賃を取らないのに、どうして船だけ運賃を取るのか国会でも議論になったことがある。

ただ、これは赤字航路であるし、国の航路であるので、本島牛島と本島備讃の航路、2つがある。国、県、市でお金を割っているわけであるので、牛島がなくなったら予算を減らされる。こういう厳しい運営の中で丸亀市がいくら出すかという話だが、丸亀が出しすぎると、国が削ってくる。非常に分かりにくい。

7月の陳情の際、島の要望をしてくれていたらいいが、本当は国が一定ライン、これだけ出すと決めてくれていたら市はやりやすい。例えば、今は丸亀市が1億8000万ぐらい。

その中で無料の話も出て、私もそれは思っているが、無料にするにあたっていろいろな壁がある。予算というのは島だけでは組めない。市内の均衡というのもあるので、島ばかりで予算を取るのもやはりよろしくない。

20日航路無料については、これからの島はやはり人が来てくれて、住む住まないは別であるが、島を知ったら誘客を招き、ここに雇用が生まれたりすることも島が元気になる選択肢の1つなので、それはやはり続けていかなければならないという判断のもと推進していかせようと思っている。

いずれにしても、この75歳の部分と高校生までの無料化の判断は、お金の話ではあるのですが迷ったわけであるが、本島は75歳以上の数が多い。だから75歳以上の無料を年間10回など、要は予算からの割分になってくるので、それだけ言ってくれているから何らかの形で、いい形で来年度予算出してきてくれると思うが、基本ベースはお金がかかる。

(市長)

しっかりと検討していく。

(会長)

続いて質問票の2番、可燃ごみの収集については本島地区地域づくり推進協議会の岡田副会長からお願いいたします。

(コミュニティ 2)

可燃ごみの収集について、現在、夏場は週2回収集していただき助かっているが、近年の暑さは厳しさをましており、可燃ごみの収集日を増やしてほしいという声が出ている。年間通して週2回の収集をご検討いただきたいが、まずは夏場の収集を5月から10月に延長していただけないか。

(市長)

夏場の可燃ごみ、その状況というのは私も手に取るように分かる。私も5月から10月ま

でだと本当にいいと思うが、今すぐには、まだそれができる体制にはないということで難しい。しかし、こういった声があるということは、島民の皆さんの要望ということで、今後しっかりと検討をしていく。

(会長)

それでは、質問票の3番に移りたいと思う。市道管理について、泊自治会の今川会長からお願いいたします。

(コミュニティ3)

市道等に草や木が伸びてきて、交通の妨げになっている箇所が多くある。市が定期的に対応してくださっている部分もあるが、間に合わないところは、地元でも草刈りをしている。市道等の市の管理地について、市で対応をお願いしたいが、地元が草刈りをした場合も、草刈り後の草や木の処分について対応をお願いしたい。

(市長)

地元の方々に市ができないところの草刈りをしていただき、まずは感謝を申し上げる。ご迷惑をおかけしている。本来市が全部しなければいけない除草へのご協力に感謝を申し上げます。後の処分はしっかりとやっていくので、その部分はまた話し合いを。

(コミュニティ3)

それ以前に、地域の皆様の高齢化があつて、なかなか草刈りが進まない。市で年間1回か2回、市道の草刈りをしているが回数を増やしてほしい。

(市長)

草刈りした後の分は市がちゃんと処分するようにまずしていきたい。置き場所等については、建設課まで。

(コミュニティ3)

言われた分は建設課に依頼するが、量が膨大なので、言ってくれる島民もいるが、草刈り出来ていないところもたくさんある。一括して市道全部してほしいという意見と、地元で刈った後どうするのか。

(市長)

まず草を刈った後の処理は、建設課が行うように指示する。

(コミュニティ3)

私有地のカーブで見えにくいところがたくさんあって危ない。私有地なのでどうしたらいいのか。

(岡田議員)

竹が出てきている。道路は市かもしれないが、その法面が人名で手を出せない。県道も同じであるが、業者が1m50cm、2m、法面を刈りこむが、それは年1回の仕事。

市の土地であれば役所がしなければいけないが、人の土地なので、それは個人にやらしてもらわなければいけない。私の考えとしては、今年中に放棄地の個人使用者に市からきちんと管理するように督促を出す。できるかできないかはわからないが、市がやることはメリハリ

をつけ、なんでも市はできない。税金なので私有地、神社仏閣にお金は出せない。

処分の話は、例えば小阪のヘリポートの前に置くとすると、悪い人もいて、自分の家のものを持ってくる人もいるかもしれないのでそれが怖い。

(市長)

私は川西町南部で周りは田んぼが多く、また休耕田も多い。草を刈ってと言ってもなかなか刈ってくれないところが多い。

私有地の部分はよほど危険な所は強制執行する場合もあるが、本当にまれで、相当の予算がかかる。2件だけやっているが、皆さんの税金からやることになるので、私有地にはなかなか手を出せないのも現状である。

先ほど言われた島民の方が刈ったごみの処理は、建設課に言っていただいて、そこに置くというような形は指示する。

草刈りの回数を増やすことについては、市全体、大体年2回ぐらいやっていると思うが、それを3回にというのはいたるところから言われている。暑くなり草が生えやすので、ここもまた検討を前向きにしていきたいと思う。

(コミュニティ4)

私は笠島の町並みのNPO会長、笠島人名会の理事長でもある。NPOなので、町並みを綺麗に維持して保存していかなければいけない任務がある。これは国からも非常に強く言われており、その中で草の問題はいつも悩んでいる。

所有者の責任なので、一人一人全員にコンタクトをとって頼んだ。全部100件ぐらいあるが、まずコンタクトが取れない人もいる。取れてもやってくれない人もいる。お金を出すからやると言ってくる人もいて非常に扱いが難しい。

街並みの景観を維持するというのは、本来は丸亀市の行政の義務である。それをNPOが協力するという立場でやっているが、困っている。

その中で、私がたまたま人名会の会長でもあって、笠島の街中で掃除をした木や草については、人名会で受け、笠島人名会の持山に捨てている。これは生の木、生の草なので悪影響はない。

山には市の指定文化財の日本遺産がある。文化財エリアにごみを捨てる人もいる。捨てられれば仕方がないので、私たちが掃除する。生の草と木であれば、受け入れることは可能。今、塩飽建設が、すでに有料で受け入れはやっている。

(市長)

現状が大変よく分かった。

(コミュニティ4)

文化財保存活用課と協力して、場合によっては文化財保存活用課からNPOに依頼がくることがあり、有料でやっている。

補助金をあげてほしい。我々NPOは、丸亀市の補助金で左うちわで運用しているわけではない。補助金は20万円しかなく、あとは自分たちでまわしている。5年間契約の指定管

理料は、人件費は最低賃金が5%、また電気代も上がりカバーできない。

今年の秋、契約の途中で指定管理料を少し増やすよう依頼を出すので、心に留めておいて欲しい。

(会長)

それでは質問票4番、イノシシ被害の対応について本島地区地域づくり推進協議会 信原副会長から願います。

(コミュニティ5)

何年前から言っているが年々ひどくなり、年寄りではなかなか対応できないような、例えば道路側溝や農業用水路に石を落とす被害がでている。

我々も5キロ10キロは持てるが、20キロ30キロのかなり大きな石もあり、センターへ連絡して対応をお願いしている。それがあちこちであるので非常に困っている。

土と石と一緒に落ち、雨が降ったときに詰まり、溢れるというような状況。道の横の石垣も、道路が通れなくなることもある。その度にセンターをお願いをしているが、これがあちこちに出ている状況である。

例えば、石垣は全部セメントで固める、水路は蓋をするなどしないとイタチごっこで、人間が負けているような状況でアイデアをいただきたい。

(市長)

イノシシのことではご尽力されて、大変な思いをされていることが分かる。まずは、石を落として溝に落ち、動かないものについては、センターへ言ってもらう。遠慮なく相談をしていただいて、対応していきたいと思う。

水路の蓋掛けについては、全部の蓋掛けは難しいので、ここだけでも、というところがあったら前向きに検討したい。一部だけでもここは絶対やった方がいいところがあれば、おっしゃっていただきたい。

イノシシの対策というのは、島民の皆さんにご尽力をいただいて、昨年度に集中捕獲を行った。数的な面で言うと本当にたくさん捕っていただき、感謝している。本当に粘り強くやるしかないと思っている。予算は年々増やしており、粘り強く市としても取り組んでいこうと思っている。一挙にできる方策はないと思うので、その現状をいろいろとご報告をいただきながら、少しでもよくなるように進めればと思う。今日は本当に現状を詳しく話していただきありがたい。

(岡田議員)

蓋掛けが必要だと思っている所はあるのか。

(コミュニティ6)

土をよく落とす、大体が決まった場所。

(岡田議員)

場所によっては県道などがある。イノシシ対策は議会で何度も言っており、予算は倍くらいつけてくれよくなってきているが、島に限らず各地で出てきている。島に限っては、一

時期毎日イノシシを見ていたが、捕っているの見なくなった。絶対数は減っていると思う。大きいのが崖を崩したりするので、猟友会に情報を伝えて連携しながら、気長にいかねばいけない。人にケガがでないだけいい。8月9日からHOTサンダルでいろんな人が来るので、夜はあまり出歩かないように。夜行性ではないが、人がいるので夜に活動している。

(コミュニティ7)

補助をもらって柵を作っている。イノシシの数は減っているが、柵があっても畑に入ってくるので柵を二重くらいにしなければいけないが、また補助はもらえないか。芋などのシーズンになると入ってくる。

(岡田議員)

2回目の補助が可能か。またセンターから農林水産課へ確認を。

(市長)

実際、危ない目にあっていないか。全国的には嘯まれたなど被害が増えている。

(コミュニティ7)

イノシシは逃げていく。

(コミュニティ5)

インターネットで調べるといろいろな方法を書いている。ワイヤーや電気柵、ピンクのテープがいいとあってやってみたが効果がなかった。今考えているのは、ペットボトルに強烈な臭いのするクレゾール石鹼水を入れて吊るしていたら、臭いで来なくなる。いろいろな方法を皆さん試している。

(コミュニティ4)

笠島の景観のために、クレゾールは私も使っている。

(会長)

今回の市長と語る会の議題については以上で終了となる。もう少し時間があるので、他になにかあれば。

(市長)

昨年度、いろいろご意見いただき、その中にヘリポート周辺の草刈のことを言われていた。その回答が十分できないということで、回答させていただく。

まずヘリポートの側溝の蓋掛けは、令和7年度の予算で計上して行くと、今の予定ではなっている。

それと8月19日には草刈りする予定である。ガタガタとなっているところは、まだ今検討中ではあるが、7年度に予算を取りヘリポートを綺麗にならすことを今は検討中であることを報告させていただく。

(岡田議員)

ヘリポートの側溝の蓋掛けは、当時は付けるという話であったが、地元から付けてもらったら困ると話もあった。付けると車両が岸壁まで入ることができ、車で入って釣りをする客がいた。地元は懸念事項があり、側溝を開けていると私は記憶している。一度話をしてくれ

た方がいい。

(会長)

ドクターヘリが来るようになって、依頼をかけたら 10 分ちょっとで来るので、その間にヘリが降りる準備などをする。ゴミなどが草に隠れていると危険なので草刈りが定期的に必要になるのでお願いしている。

ヘリポートに行く間に水路があり、その水路の両端にも少し草が生え、水路がはっきりわからない。緊急車両が行ったときに、道路と水路と護岸のコンクリートの間が、道がふさがっているように見えるような状況もある。もし作業しているときに、そこに足を落としてケガをしてはいけない。もし蓋掛けができるのであれば路面も広がる。

しかし、話を聞いていて、蓋掛けしない方が掃除もしやすいので、逆に水路があると分かるように対応していただくなど、また相談していただきたい。

(岡田議員)

草刈りを随時したらいい。草刈りができないのであれば、生えにくいようなシートを張ればいい。あと問題は、蓋掛けしてもいいかどうか。

(会長)

これについては地元と協議が必要であるので、早急に話をしようと思う。

(コミュニティ 4)

この間半世紀ぶりに笠島で虫送りを行った。広報紙の表紙にまでしていただき、感謝申し上げます。元々はお寺の行事、つまり宗教行事であるが、それをとっばらって、笠島集落全員の行事にした。それにより集落全員の融和を図るという目的でみんなに参加してもらった。市からも 10 万円の補助金をいただいた。学生なども手伝いに来てくれて目的はほぼ達成され、なおかつ集落の融和を図ることができた。

(市長)

ニュースでも大きく取り上げられた。

(コミュニティ 4)

民族文化は放っておくと、人が減ってきて消えてしまう。それを維持するのは重要なこと。

(会長)

本日は本島地区の現状を市長に直接詳細にお伝えして、島民と一緒に協議をする機会を設けていただき感謝する。以上をもちまして終了とする。

(市長)

大変貴重なご意見をいただきお礼申し上げます。